

第3章 福祉懇談会とアンケート調査の結果

1. 福祉懇談会

I) 福祉懇談会の概要

本計画の策定にあたり、より多くの市民の声を聴き、市民の視点を取り入れた地域の福祉課題を把握するため、地区別に福祉懇談会「しゃべり場」を名寄市と合同で開催しました。

■福祉懇談会の開催日程

No.	地区	日時	開催場所	参加者数
1	名寄地区	平成27年10月20日(火) 18:30-20:00	名寄市総合福祉センター	38名
2	名寄地区	平成27年10月22日(木) 10:00-11:30	名寄市総合福祉センター	15名
3	風連地区	平成27年10月23日(金) 18:30-20:00	ふうれん地域交流センター	21名
4	智恵文地区	平成27年11月6日(金) 18:30-20:00	智恵文多目的研修センター	11名
合計				85名

福祉懇談会には、名寄市立大学の学生を含む、幅広い年代の市民の方々が参加されました。

気軽にたくさんの発言ができるように、5人程度の小グループに分かれて、地域福祉実践計画策定委員の進行のもと、参加者がカードに書いた意見を、順番に発表する形式でグループワークを行いました。

グループワークでは、「高齢」、「子育て」、「健康」、「障がい」のテーマについて、参加者同士で、出された意見を模造紙上で、「名寄の良いところ」、「名寄の改善が必要なところ」に整理して、話し合いを深めていきました。



福祉懇談会の様子

Ⅱ) 福祉懇談会の主な意見と課題の整理

福祉懇談会でのグループワークでは、「地域」、「子ども」、「町内会」、「連携」に関する意見が多く出されました。

①「地域」に関すること

「住みやすい」、「病院・お店・銀行などが揃っている」、「人がやさしい」、「野菜をいただくことが多い」、「他の地域から大学生が集まってくる」、「大学生のおかげで、まちが活気づいている」、「地域福祉の活動が活発」など、本市の良い点についての意見が出されました。

これは、約3万人という中規模のまちの良さであり、道北のエリアの中では、ある程度、病院や商店などの社会資源が揃っていて、公立の大学もあるという特徴が出ています。

一方で、「人口減少」が進んできていることや、「商店街がさびしい」などの意見も出されました。

【現状・課題】

地域の活性化については、近年、市内の福祉事業所が、商店街の空き店舗を活用して新たな活動場所や、市内各地に高齢者や障がい者等が生活するグループホーム等が設置されています。

福祉懇談会で「地域の活性化」を求める意見が多かったことから、今後も、地域の状況を踏まえた地域福祉の活動を、さらに進めていく必要があります。

②「子ども」に関すること

「子育て支援が充実している」、「待機児童が少ない」、「延長保育がある」、「素直」、「挨拶が良い」など、本市の良い点についての意見が出されました。

一方で、「ファミリー・サポート・センター事業を始めてほしい」、「障がいのある子の進路の相談先がわからない」などの意見も出されました。

【現状・課題】

子育て支援については、平成27年10月に、名寄市地域子育て支援センター「ひまわりらんど」がオープンし、平成28年10月からは、「ファミリー・サポート・センター事業」を名寄市より受託し、名寄社協で実施しています。

また、「児童生徒ボランティア活動普及実践事業」を通じて、学校での地域活動への支援や福祉教育の推進にも取り組んでいます。

障がいのある子どもの状況についても、名寄社協で子育てに関する懇談会や研修を開催するなど、地域の関係者との連携を図る活動を行っています。

今後も、子どもたちの状況をふまえて、さらに子育て支援や各種相談の充実を図っていく必要があります。

③「町内会」に関すること

「町内会活動が活発」、「小さいまちならではの近所とのつながりがある」など、本市の良い点についての意見が出されました。

一方で、「隣近所の付き合いが少なくなっている」、「町内会に入る人が少ない」、「若い人や女性の町内会への参加が少ない」、「町内会の役員のなり手がいない」などの意見も出されました。

【現状・課題】

町内会活動については、町内会ネットワーク事業などをとおして民生委員児童委員、老人クラブなどと連携して、町内会の中で支援が必要な人に対して、連携して支援をする取り組みが行われています。

「近所付き合い」や「町内会活動」は、地域の支え合い活動の基礎となるものであり、今後も、福祉の意識の醸成や地域福祉の担い手を育てていくような取り組みが必要です。

④「連携」に関すること

「人とつながりやすい」、「世代間の交流がある」、「顔の見える支援の輪がある」、「福祉のネットワークがある」、「関係機関の連携が良い」など、本市の良い点についての意見が出されました。

一方で、「大学と市民のつながりが弱い」、「相談支援では、相談機関の初期対応が大切になる」、「交流の橋渡し役がいると良い」などの意見も出されました。

【現状・課題】

市内の福祉関係者の連携の状況については、障がい者版のケアマネジメントの制度も本格的に始まったことを受けて、障がい者分野の福祉関係者、高齢者分野の福祉関係者、民生委員児童委員などが、必要に応じて連携して支援を行うという相談支援体制ができつつあります。

また、平成 28 年 4 月に名寄市立大学に設置された、新たな教育・研究及び地域貢献の拠点となる「コミュニティケア教育研究センター」を中心にして、大学との連携も進んできている状況があります。

市民との協働で地域福祉の取り組みが進められていくことを考えると、今後も、市民・行政・関係機関・大学などの連携や交流の橋渡し役の育成を進めたり、多世代交流の充実などが必要です。

2. アンケート調査

I) アンケート調査の概要

本調査は、名寄市の「第2期地域福祉計画」と名寄社協の「第4期名寄市地域福祉実践計画」の策定に向けて、その基礎資料とするために実施しました。調査の概要及び回収結果は、以下のとおりです。

調査の対象	名寄市にお住まいの18歳以上の1,500人 (名寄・風連・智恵文の地域別、年代別、男女別に無作為抽出)
調査方法	自己記入方式、郵送による調査票の配布・回収
調査時期	平成28年5月
回収票数(率)	599票(39.9%)

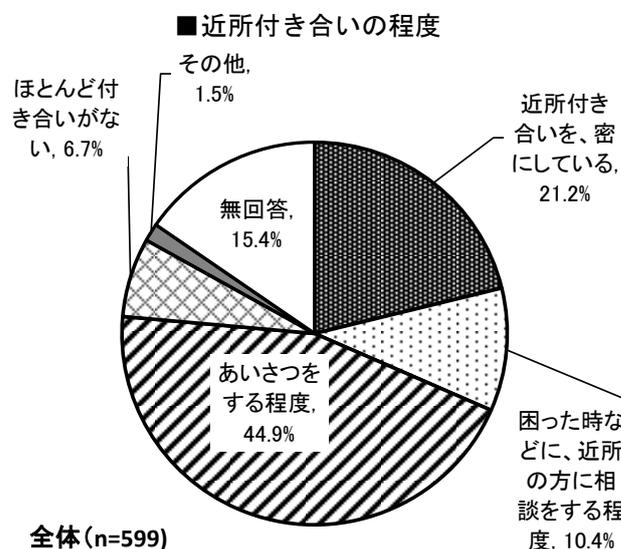
II) アンケート調査の結果について

少子高齢化が進んでいる状況を考えますと、地域での支え合いのネットワークの充実が、今後、一層求められており、『地域での支え合い活動の基礎』となる「近所付き合い」と「町内会の加入の状況」の2つと、『地域活動の状況』に関する「地域活動への参加状況」、「地域福祉の推進に必要な取組」の2つの計4点について、分析しました。

①地域との結びつきの強化が必要

普段の近所付き合いの状況は、「近所付き合いを、密にしている」と「困った時などに、近所の方に相談をする程度」を合わせると31.6%と低い割合となっています。

内閣府の平成19年度国民生活白書には、「地域から孤立している人は、全体の約2割」、「地域から完全に孤立している人は、約7%」というデータもありますので、市民が安心して健やかに暮らせるまちづくりのためには、個人と地域との結びつきの強化が必要です。

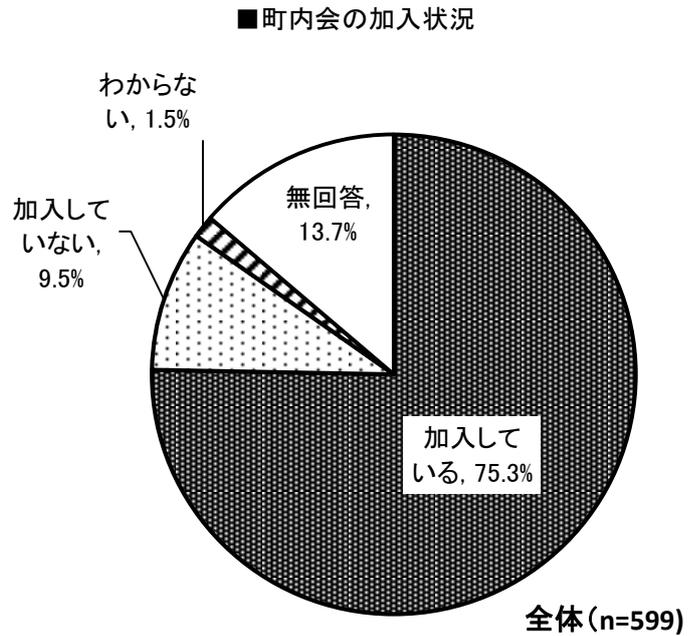


②町内会に参加しやすい状況づくり

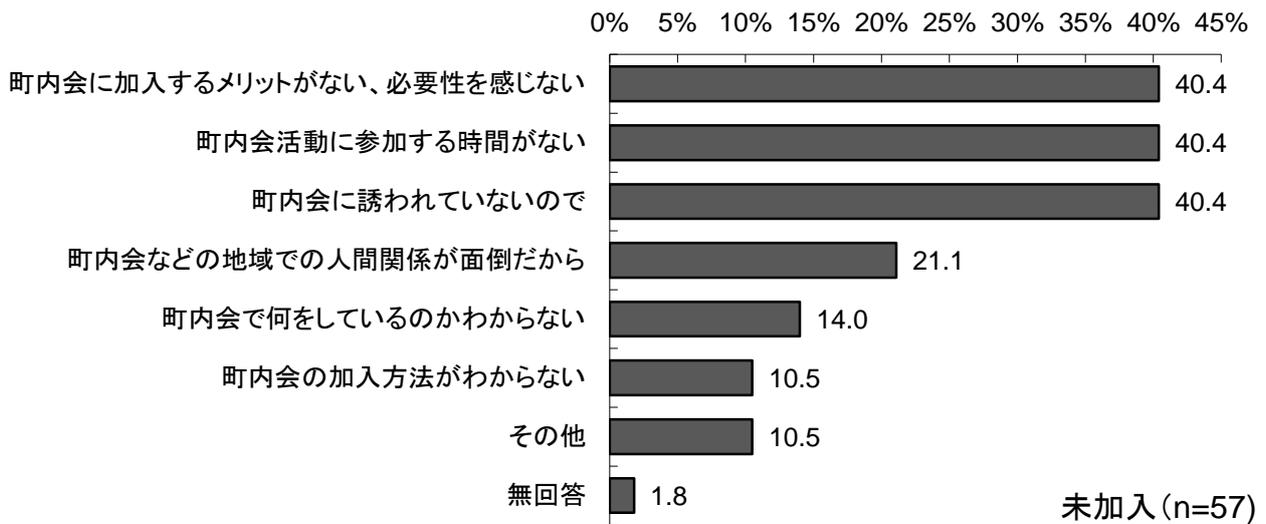
町内会の加入状況については、「加入している」の割合が75.3%、「加入していない」が9.5%となっています。

町内会に加入しない理由については、「町内会に加入するメリットがない、必要性を感じない」、「町内会活動に参加する時間がない」、「町内会に誘われていないので」が、ともに40.4%となっています。

以前に比べ、町内会の役割も変わってきているという時代背景もあるかもしれませんが、アンケート結果をもとにして、年代や住宅形態などに応じた検討が必要です。

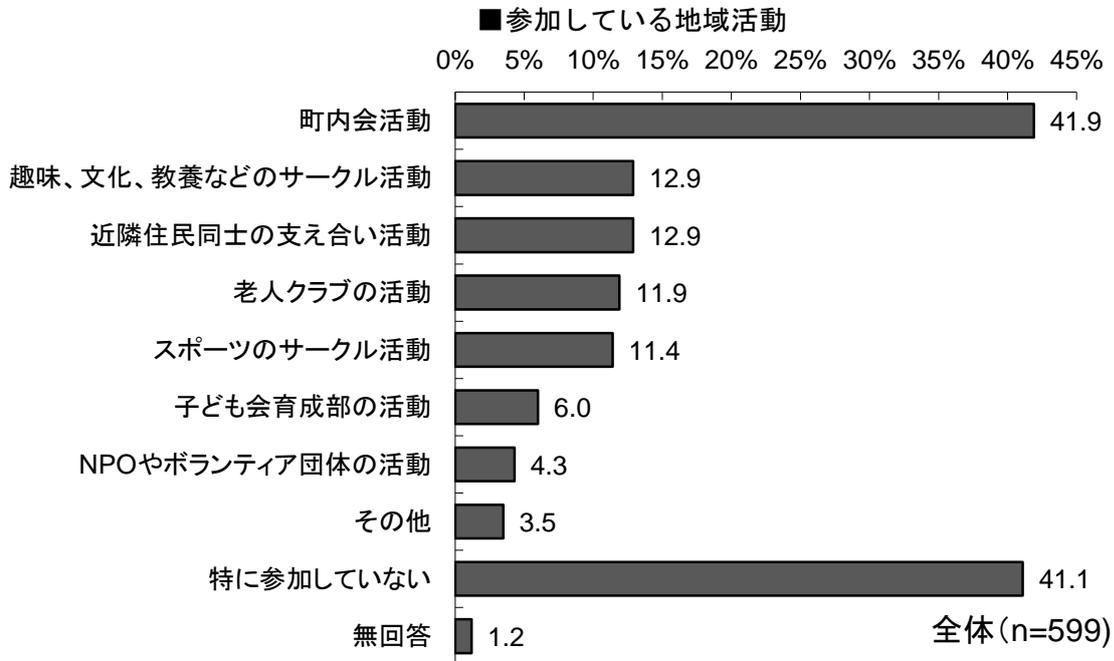


■町内会に加入しない理由



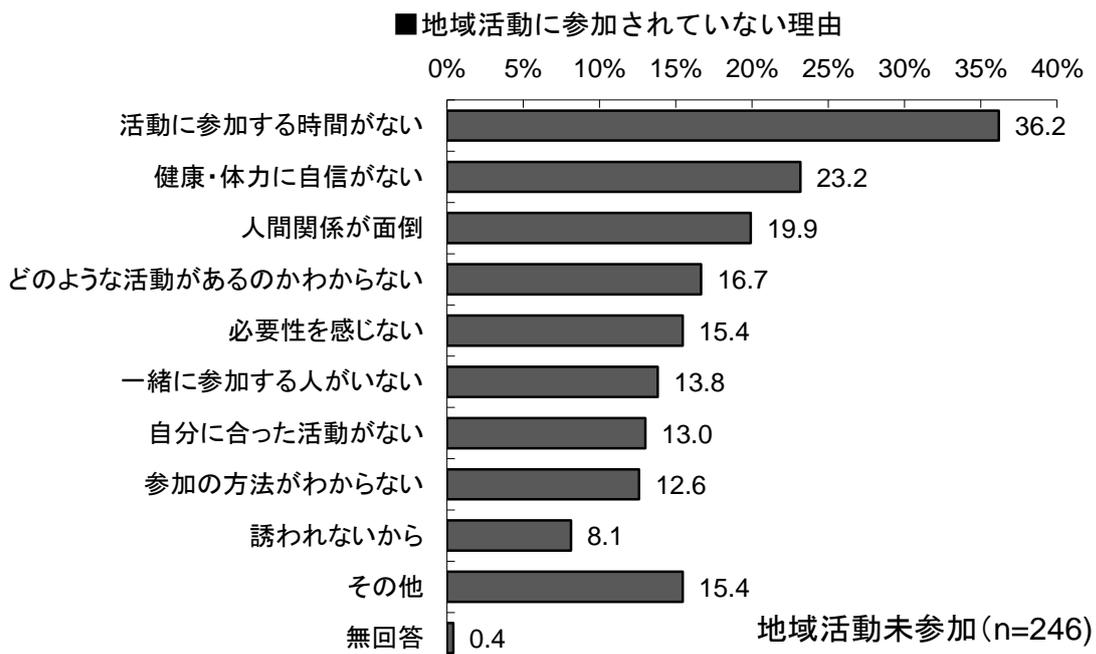
③地域活動に参加しやすい状況づくり

参加している地域活動については、「町内会活動」の割合が41.9%と最も高く、次いで「趣味、文化、教養などのサークル活動」と「近隣住民同士の支え合い活動（高齢者への声かけ・見守り・除雪など）」がともに12.9%となっています。



「地域活動に参加されていない理由」については、「活動に参加する時間がない」の割合が36.2%と最も高く、次いで「健康・体力に自信がない」が23.2%となっています。

また、アンケート結果から、65歳以上の方に地域活動に参加していない方が一定程度いることもわかりましたので、若い人だけではなく、高齢者へのアプローチも大事になってきます。

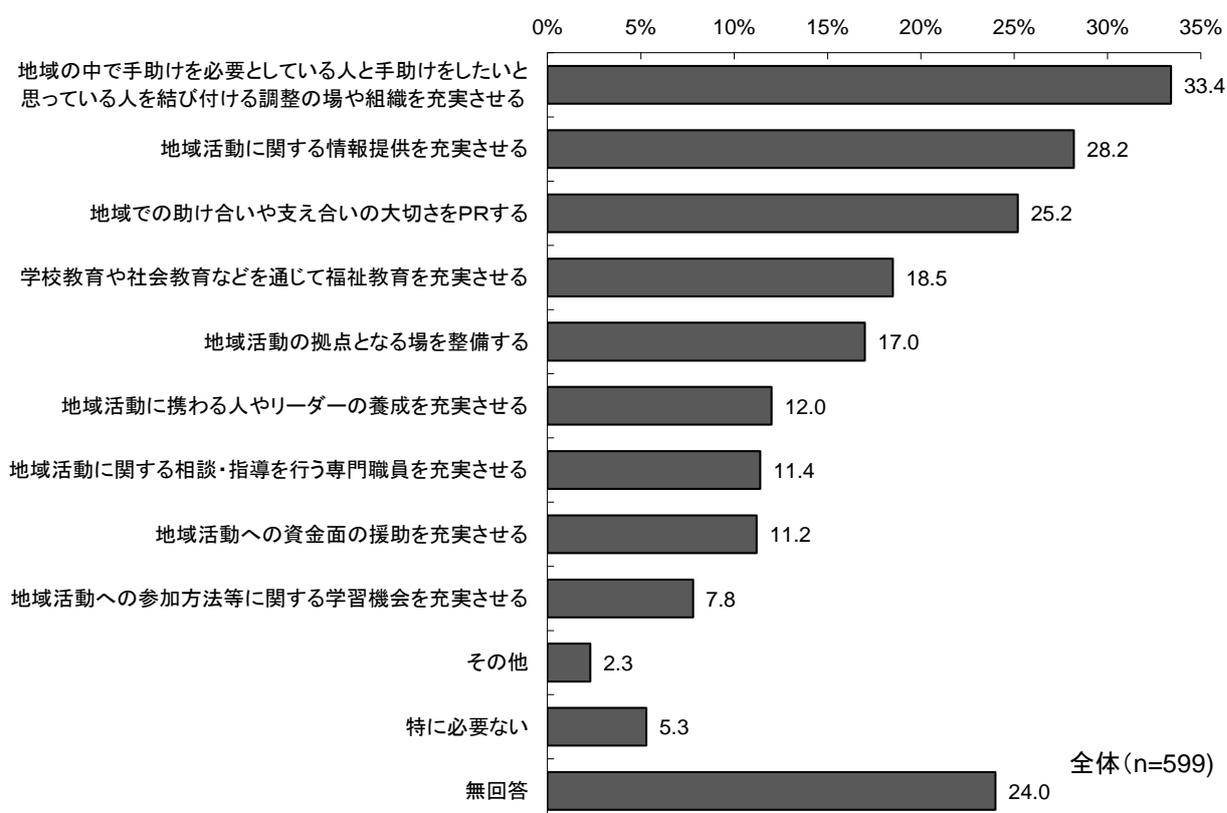


④地域福祉を推進するためには橋渡し役や情報提供の充実が必要

地域福祉の推進に必要な取り組みについては、「地域の中で手助けを必要としている人と手助けをしたいと思っている人を結び付ける調整の場や組織を充実させる（「橋渡し役」の充実）」の割合が33.4%と最も高くなっています。

次いで「地域活動に関する情報提供を充実させる」が28.2%、「地域での助け合いや支え合いの大切さをPRする」が25.2%、「学校教育や社会教育などを通じて福祉教育を充実させる」が18.5%となっています。

■ 地域福祉の推進に必要な取り組み



「情報収集方法」については、「新聞」の割合が63.4%と最も高く、次いで「市や社協の広報紙」が61.1%、「テレビ」が55.6%、「友人や知人、近所の人に聞く（口コミ）」が31.9%となっています。

また、アンケート結果から、年代により、情報収集方法に特徴があることがわかりましたので、多様な情報発信の方法が必要です。

